

都道府県・ 指定都市番号	24	都道府県・ 指定都市名	三重県	研究課題番号・校種名	1 高等学校
				教科名	総合的な学習の時間
研究課題	<b>学習指導要領の趣旨を実現するための学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に関する実践研究</b> ○ 地域を支え、地域の発展に貢献する人材を育成する「地域貢献夢プログラム」を核に据えた「総合的な学習の時間」の実践研究				
指定年度	平成 28 年度～平成 29 年度				
ふりがな 学校名 (生徒数)	みえけんりつうえのこうとうがっこう 三重県立上野高等学校 (883 人)				
所在地 (電話番号)	三重県伊賀市上野丸之内 107 番地 (0595 - 21 - 2551)				
研究内容等掲載ウェブサイト URL	<a href="http://www.mie-c.ed.jp/hueno/">http://www.mie-c.ed.jp/hueno/</a>				
研究のキーワード	地域貢献, 思考力, 表現・発信力				
研究結果のポイント	○ 地域貢献 <ul style="list-style-type: none"> <li>伊賀の地域資源（人、もの、歴史、自然、文化、産業等）に対する興味関心の深化</li> <li>伊賀に誇りを持ち、伝統文化を尊重する心や郷土を愛する態度の涵養</li> <li>自立した社会人として生きる力を備え、将来地域に戻り、地域を支え、地域の発展に貢献する有為な人材の育成</li> </ul> ○ 思考力 <ul style="list-style-type: none"> <li>論拠を積み重ね、首尾一貫した主張を生み出し、論理的に考え、答えや解決策を導き出す力の育成</li> </ul> ○ 表現・発信力 <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の言葉で考えや思いを伝える力の育成</li> <li>論理的かつ具体的で説得力のある文章を作成する力の育成</li> </ul>				

## 1 研究主題等

### (1) 研究主題

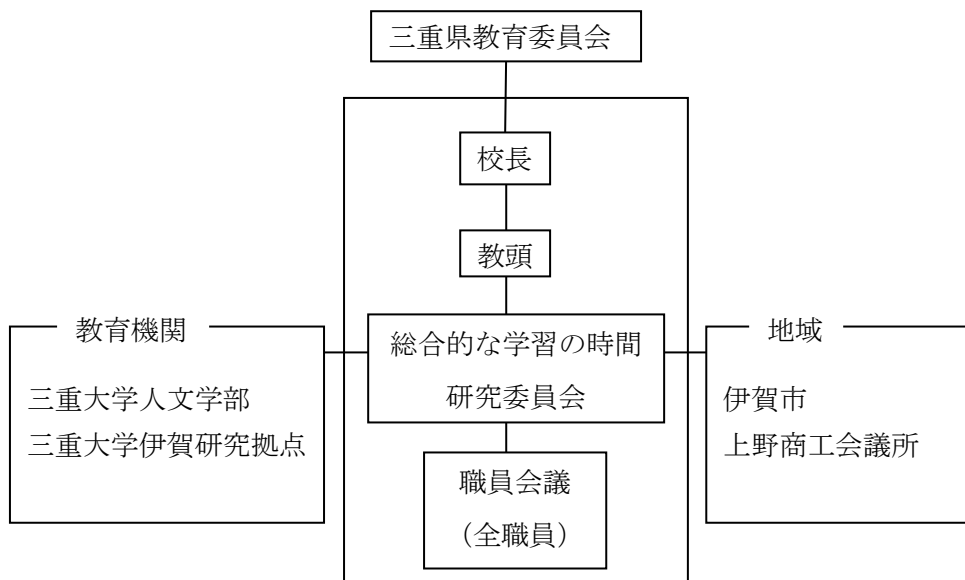
地域を支え、地域の発展に貢献する人材を育成する「地域貢献夢プログラム」を核に据えた「総合的な学習の時間」の実践研究

### (2) 研究主題設定の理由

本校の立地する三重県伊賀地域では近年、少子高齢化・過疎化が進み、小・中・高等学校の統廃合が続くなど、学校を取り巻く環境が激変している。このような中、当地域の中核校として、大学等の上級学校への進学に向けた学習指導・進路指導に力点を置いてきた本校に対し、地域に戻り地域で活躍する有為な人材を育成することが強く求められている。

このようなニーズを踏まえ、これまでの学習指導・進路指導について、地域課題解決型キャリア教育の観点から改善を図るとともに、地域を支え、地域の発展に貢献する人間としての在り方・生き方を探究する計画的・系統的な学習活動の充実を図る必要がある。これが、研究主題設定の理由である。

### (3) 研究体制



### (4) 1年間の主な取組

平成 28 年度	4月	研究計画の立案検討	*「総合的な学習の時間」研究委員会
	4月	「総合的な学習の時間」オリエンテーション	
	5月	読書活動Ⅰ「本の推薦状」発表会	
	6月	「教育実習生インタビュー」発表会	
	6月	地域社会の第一線で活躍する専門的職業人（本校卒業生）による講演会	
	7月	「地域貢献夢プログラム」グループ別集会	
	9月	田村学視学官来校（授業参観，講演，研究協議）	
		読書活動Ⅱ「フォト俳句・学校図書館を使った調べる学習」発表会	
	10月	地域貢献夢プログラム（地域学習フィールドワーク）	
	11月	岡山県立倉敷南高等学校「課題研究発表会 ポスターセッション」視察	
	11月	学びの発表会「地域貢献夢プログラム ポスターセッション」	
	1月	読書活動Ⅲ「ブックレビューアーになろう」発表会	
	1月	大学教員による講演会「忍者学」	
	2月	地域社会の第一線で活躍する専門的文化人（本校卒業生）による講演会「伊賀学」	
	2月	伊賀学検定受験	
	3月	年間の反省	*「総合的な学習の時間」研究委員会

## 2 研究内容及び具体的な研究活動

### (1) 研究内容

#### ○ 地域貢献

地域課題解決型キャリア教育の観点から、「地域貢献夢プログラム」として、伊賀の地域資源（人，もの，歴史，自然，文化，産業等）を調査し，フィールドワークを実施する。これらの学習過程を通して，伊賀に誇りを持ち，伝統文化を尊重する心や郷土を愛する態度の涵養や，自立した社会人として生きる力を備えて将来地域に戻り，地域を支え，地域の発展

に貢献する有為な人材の育成を目指すための、協働的な学習単元を計画する。

○ 思考力

図書資料から自分の設定したテーマに即して、必要な情報を取り出して活用し、目的に応じて文章を引用・要約したり、自分の考えをまとめたりする様々な読書活動を通じて、思考力や言語能力、読書力を育成する。

○ 表現・発信力

年間を通じて、様々な取組について振り返り、まとめるための時間を設定し、その内容をポスターセッション等で表現・発信する中から、他者に自分の言葉で考えや思いを伝え、論理的かつ具体的で説得力のある文章を作成する力を育成する。

(2) 具体的な研究活動

○ 地域貢献

地域貢献夢プログラムでは、1年生が、伊賀の人、もの、歴史、自然、文化、産業等について、20個のテーマに分かれてフィールドワークを行った。事前に、各グループが担当するテーマについて情報収集及びレポート作成を行い、レポートについては、1年生全員の前で発表を行った。発表では、話題を広げたり深めたりする思考方法や情報の整理・分析の能力が十分に備わっていない生徒もおり、インターネット等で得た情報の羅列で終わっているものがいくつか見られたが、学校司書のカンファレンスを生かし、グループメンバーの既存の経験や知識をうまくつなげ、話題を多面的に広げ深めている発表もあった。また、フィールドワークでは、事前学習やレポート発表を踏まえ、施設見学やインタビューを行った。生徒にとっては、多様な考えを持つ生徒や社会と関わる協働的な活動を通して、地域に関する知見を広げるとともに、新たな発見や課題が生まれる契機となり、探究的な学習過程を高めることにつながった。さらに、次年度の地域魅力のブランディング活動に向けて、地域に関する知識・理解を体系的に整理できるよう、「伊賀学」講演会を行ったり「伊賀検定」受検に挑戦したりした。

○ 思考力

1年生は、5月の読書活動Ⅰ「本の推薦状」、7月の読書活動Ⅱ「図書館を使った調べる学習」、12月の読書活動Ⅲ「ブックレビューになろう」等、探究的に、様々な図書資料から自分の設定したテーマに即して必要な情報を取り出して活用し、目的に応じて文章を引用・要約したり、自分の考えをまとめたりする活動に取り組んだ。特に、「図書館を使った調べる学習」では、地域貢献夢プログラムで取り扱うテーマに関連して、生徒は、グループごとのテーマの設定と情報収集、整理・分析、まとめ・表現という探究活動に取り組んだ。

○ 表現・発信力

フィールドワーク終了後、新たに生じた課題や収集した情報等を整理・分析し、課題解決に向けての提案をまとめ、1年生全員を対象とした、ポスターセッション形式での発表を行った。ポスターの内容については、前述のレポート発表ほどではないにしても、調査で得た情報の羅列のみで、テーマに即した内容の深まりが十分でないポスターも所々見られた。しかし、経験したことを基にしながら自分の言葉で、具体的な地域の課題解決に向けての提案をしている説得力のある発表もいくつか見られた。

### 3 研究の結果と今後の取組

(1) 研究の結果

## ○ 地域貢献

生徒は、身近な地域資源を題材とした学習を一定期間行うことで、他の生徒の価値観や社会と関わる協働的な学びを通して、探究活動のプロセス（課題の設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現）の基本を経験することができた。また、地域に関する理解が深まることで、身近な地域を通して社会を意識することができ、自己の在り方・生き方を考えるきっかけになった。一方、探究活動におけるそれぞれの活動時間が短かったことで、生徒が一つの課題について深く考えたり、内容を相互評価したりする時間を十分に確保できなかった。今後、主体的に思考する力の育成と学びの深まりについての改善が必要である。

自己評価アンケート結果（※ 数字は、前者が4月調査、後者が12月調査）

- ・ 「物事をすすめる時に見通しを持った計画を立てる。」 62.4%→67.0% (4.6%上昇)
- ・ 「自分の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない。」  
30.5%→34.0% (3.5%上昇)
- ・ 「まわりの人に積極的に関わることができる。」 62.4%→65.6% (3.2%上昇)

## ○ 思考力

学校図書館と連携した計画的な活動を通して、様々な図書資料から自分の設定した課題に即した情報を取り出し、その情報を活用して目的に応じて文章を引用・要約したり、自分の考えをまとめたりする能力の育成を図る学習の流れを確立できた。しかし、生徒の活動時間が十分でなく、活動自体がマニュアル化されている一面もあり、今後、生徒が、様々な課題に対して主体的に考えながら、情報を取捨選択する能力の育成を図ることが求められる。

自己評価アンケート結果（※ 数字は、前者が4月調査、後者が12月調査）

- ・ 「集めた情報の関連性を考え整理できる。」 65.2%→69.2% (4.0%上昇)

## ○ 表現・発信力

年間を通じて、自らの学びを発表する機会を多く持つことにより、抵抗感なく人前で積極的に発言していきたいと考える生徒が増えた。しかし、表現や情報発信のスキルが十分でない生徒が多い中、表現の仕方の吟味やリハーサルのための時間が少なかったことで、主張に対する根拠が不足していたり、内容に合った効果的な言語表現でなかったりする発表が見られた。また、多くの生徒には、フィールドワーク等で得た経験や知識を整理・分析し、他者に対して、自分の言葉で論理的かつ具体的に説明することの難しさを実感した活動になったようである。

自己評価アンケート結果（※ 数字は、前者が4月調査、後者が12月調査）

- ・ 「自分の考えを、自信を持って言える。」 52.0%→49.0% (3.0%下降)
- ・ 「自分の考えをわかりやすく伝える工夫ができる。」 49.1%→48.9% (0.2%下降)

## (2) 今後の取組

### ○ 地域貢献

今後は、今年度の探究活動の流れを拡充し、ひとつの課題に対する探究をより深化するとともに、伊賀地域を活性化するという地域貢献のカラーを出すため、通年で伊賀市を始めとする関係機関と連携し、地域貢献的なアイデアの創造を目指した活動につなげていく。

### ○ 思考力

今後は、伊賀市等の関係機関との連携を強化し、地域の課題解決に向けた情報収集能力の育成や、新たな価値を創造したり話題を深めたりする効果的な思考方法の学習・指導等を図る。

### ○ 表現・発信力

今後は、より質の高いプレゼンテーションを行うための文章の作成方法や基本構造、言語表現の仕方等について整理し、表現・情報発信力の向上に向けた指導を図る。